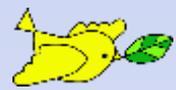
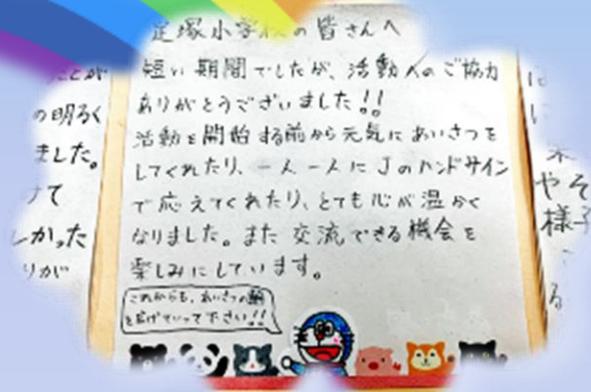


国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業（令和元年度～2年度）

小・中学校9年間の学びと育ちを支える教育課程の編成と取組の工夫改善

— 児童生徒の自己肯定感の向上を基盤として —



富山県高岡市立高陵中学校
富山県高岡市立定塚小学校
富山県高岡市立平米小学校



研究の概要

高陵中学校と定塚小学校は、平成30年度より高岡市の「小中連携教育推進校」の指定を受けたことから、中学校英語科教員による小学校6年生外国語活動への乗り入れ授業や、学習指導・生徒指導等に関する小中合同研修会を行うなど、連携の在り方について研究を進めてきた。また、令和元年度より2年間、国立教育政策研究所から教育課程(校種間連携)の研究指定を受けたことを機に、平米小学校を加えた高陵中学校区3校で、研究の方向性を明確にし、計画や内容を詳細に検討するなど、連携がより効果的なものとなるよう研究に取り組んできた。

昨年度は、学校評価アンケートの結果等から明らかになった児童生徒の実態を踏まえ、グランドデザインを作成し、小・中9年間を通して「夢や目標をもって努力する、心豊かでたくましい子供」の育成を目指して取組を進めた。特に、学びと育ちの基盤となる「自己肯定感の向上」を大切に、児童生徒の学びと育ちを支える教育課程の編成と取組の工夫改善に努めることで、自己肯定感の向上や中1ギャップの解消等に繋がることを明らかにしたいと考え研究を行った。

これらの研究を進めたことで、「PDCAサイクルによる見直しによって、児童生徒の取組への主体性が高まった」、「交流を通して互いの学校の実態を知ることができ、小・中9年間を見通して指導するという意識が向くようになった」等の成果が得られた。次年度に向けては、「学習内容だけではなく、小・中学校を通して系統化した指導計画を作成し、児童生徒に付けた力を意識して指導する」、「自己肯定感の向上や学習への満足度を数値によって検証し、分析する」等が課題とされた。

今年度は、コロナ禍により大幅な変更を余儀なくされた。だが、WEB会議システムを活用した児童生徒同士の交流の場の新設、小小連携の一層の充実、PTAと一体となった取組の推進等、昨年度の課題を踏まえた取組をより充実させようと、新たな視点での活動を加えるなど、成果につながるよう研究を進めている。



研究体制



私たちは、9年間で

夢や目標をもって努力する、心豊かでたくましい子供の育成

各校の学校教育目標

を目指します

定塚小学校

高陵中学校

平米小学校



豊かな心を持ち、共に高め合う子どもの育成



自主・自律・真理探究の精神に富み、心豊かでたくましい生徒を育成する



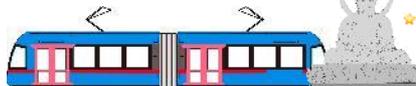
「正しく」学び、「優しく」接し、「雄々しく」生きる子どもの育成

地域の特徴

- ・高岡古城公園や「御車山」をもつ山町、商店街や再開発中の住宅街があり、高岡の発展と共に歩んできた地域である。
- ・令和4年度に定塚小・平米小が再編統合し、8年度に高陵中と一体化した新校舎建設が決定するなど、小中一貫教育の環境が整いつつある。
- ・地域や保護者の教育への関心は高く、教育活動に協力的である。

児童生徒の実態

- ・学習に対して、自ら課題を見つけ、進んで取り組んでいる。
- ・素直で礼儀正しく、校風や伝統を大切にしている。
- ・地域のボランティア活動等にも積極的に参加している。
- ・基本的生活習慣が身に付いていない児童生徒も一部みられる。



自己肯定感の向上

取組1

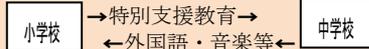
9年間を見通し、小中の円滑な接続ができるようにします

① 系統的な指導計画の作成 **知**

- ・「学習内容系統表」「各領域に関する内容・学習課題等一覧表」の作成による、各学年でのポイントを意識した学習指導

② 乗り入れ等の実施 **知**

- ・小中相互の専門性を生かした授業の実施



- ・中学生ボランティアによる、小学生への学習サポート



取組2

学習指導の工夫・改善を図り、学力の向上を目指します

① 一人一人を大切に、達成感を味わえる授業づくり **知**

- ・互いのよさに気付き、認め合う場の工夫
- ・学習の見通しをもったり、振り返ったりする「学びのサイクル」を大切にした授業
- ・主体的に調べたり、表現したりして、学び合うよさが感じられる活動の充実
- ・タブレット端末等のICT機器の活用



② 学習規律の徹底 **徳**

- ・小中連携を大切にした「〇〇小スタンダード」の作成
- ・小学校スタンダードを踏まえた「高陵中仕方集会」「クラスの絆週間」による学習規律の徹底

取組3

切れ目のない、一人一人のニーズに合った特別支援教育を進めます

① 個に応じた支援の在り方 **知**

- ・小中相互の特別支援学級担任の授業参観や情報交換会、中学校入学後にもケース会議の実施
- ・小学校教員による中学校での授業や中学校特別支援学級見学会の開催



② 個別の教育支援計画・引継ぎシート等の活用 **知**

- ・個別の教育支援計画・引継ぎシート等の活用による児童生徒理解や、自立と社会参加を目指す連続性をもたせた指導



取組4

小中の交流を充実させ、リーダーシップや好ましい生活習慣を育てます

① 児童会・生徒会活動や学校行事での交流 **徳**

- ・児童会や生徒会が主体的に取り組む「あいさつ運動」「クリーン作戦」等の小中合同行事の実施による思いやりの心やリーダーシップの育成



② ふるさと教育の推進 **徳**

- ・高岡古城公園を活用した小中の仲よし交流の取組
- ・中学生による、小学生への「越中万葉かるた」練習への協力

③ 好ましい生活習慣の育成 **体**

- ・小中で実施時期を合わせた「アウトメディア・チャレンジ週間」による自主性・自律心の育成
- ・保護者の協力を得た家庭での時間の有効活用



取組 1-① 系統的な指導計画の作成

ねらい：9年間の学びをつないだ学習内容系統表を作成することにより、小中一貫教育の学習の系統性、連続性を教師自身が把握し、各学年のポイントを意識して指導できるようにする。



社会科（歴史的分野） 系統表

校種	学年	学習内容		
		地域	日本	世界
小学校・義務教育学校前期課程	3年	市のうつりかわり (11h)		
	4年	きょう土の伝統・文化と先人たち (22h)		
	5年	(国土の地形と特色)		(世界の中の国土)
	6年	日本の歴史 (105h)		
		1 縄文のむらから古墳のくにへ 2 天皇中心の国づくり 3 貴族のくらし 4 武士の世の中へ 5 今に伝わる室町文化 6 戦国の世から天下統一へ 7 江戸幕府と政治の安定 8 町人の文化と新しい学問 9 明治の国づくりと進めた人々 10 世界に歩み出した日本 11 長く続いた戦争と人々のくらし 12 新しい日本、平和な日本へ		
中学校・義務教育学校後期課程	1年 (7年)	歴史のとらえ方と調べ方 (13h)		
		歴史の大きな流れと時代の移り変わり (122h)		
		古代国家の成立と東アジア		1 人類の登場から文明の発生へ
		2 東アジアの中の倭(日本)		

社会科の学習内容系統表(抜粋)【歴史的分野】

社会的な見方や考え方

- ・時期や時間の経過
- ・事象や人々の相互関係
- ・事象を比較・分類したり総合したり

諸事象

- ・時期、
- ・事象を



外国語科（道案内） 系統表

小学校 外国語活動	小学校 外国語科	中学校 外国語科
<p>第4学年</p> <p>お気に入りの場所をしようかしよう【やり取り】</p> <p>○自分が気に入っている校内の場所に案内したり、その場所について伝え合ったりすることができる。</p> <p>・Go straight. ・Turn right(left). ・This is～.</p>	<p>第5学年</p> <p>宝物への道案内をすることができる。【発表】</p> <p>○様々な建物や施設の英語での言い方を知る。 ○進む方向の表現が分かる。 ○位置を表す言葉(前置詞)を知る。</p> <p>・I want to go to～. ・Where is your treasure? ・Go straight. Turn right(left). You can see on your right(left). ・It's on(in/under/by) the desk.</p> <p>自分の町をしようかすることができる。【発表】</p> <p>○自分たちが住んでいる町の名所や特産品について2～3文の簡単な英語で紹介する。</p> 	<p>第2学年</p> <p>Speaking 道案内①</p> <p>○相手の状況に合わせて道案内をすることができる。</p> <p>・Would you like some help? ・Could you tell me the way to～? ・How long will it take? ・Turn right(left)at the second corner. ・Turn right(left)at the second light. ・Walk two blocks and turn right(left). ・You'll find it on your right.</p> 

外国語科の学習内容系統表(抜粋)【道案内】

昨年度の理科に加えて、今年度は社会科と外国語科に視点を当てて学習内容系統表を作成した。社会科歴史的分野で、小学校では複数の立場や意見を基に、歴史的事象を多角的に考える学習を行っている。それを踏まえて、中学校では新たに政治面・経済面・文化面等、複数の視点を与え、歴史的事象を多面的、多角的に考察させることを意識して指導できた。外国語科では中学校での学習を見据え、CAN-DOリストを基に、小学校で身に付けておく定型表現等、小中の学習内容が円滑につながるように配慮して指導できた。今後、他教科等でも系統表を作成し、児童生徒がつまずきやすい単元や領域でのポイントを意識した授業を行いたい。

取組 1-②

乗り入れ授業等の実施（外国語科）

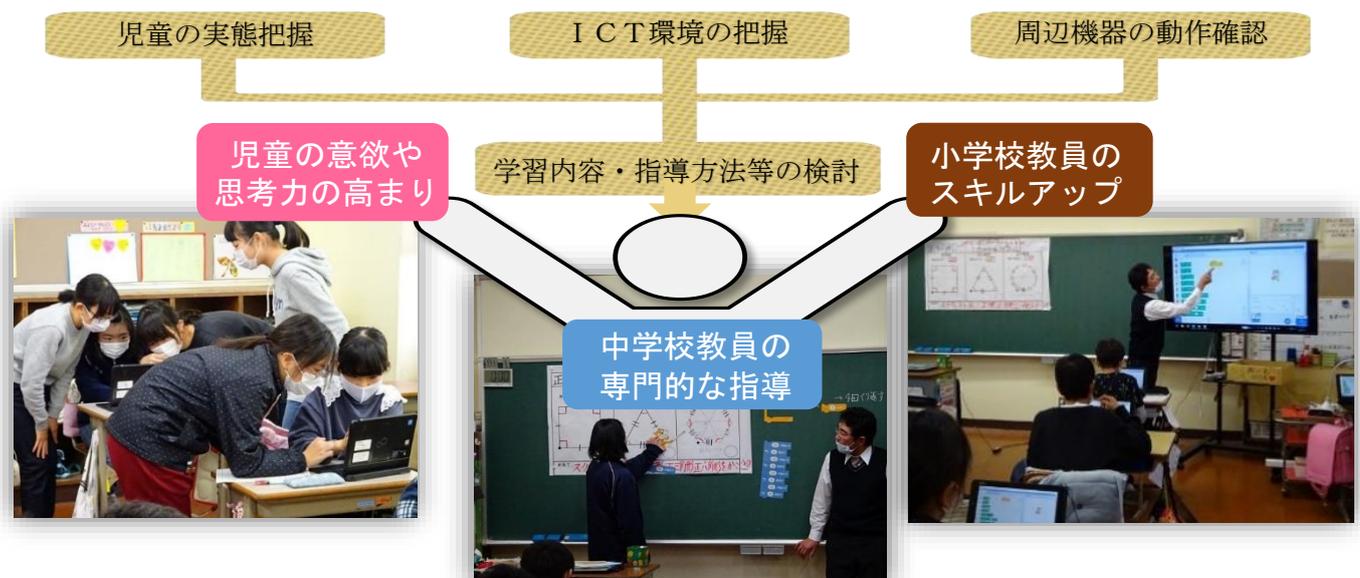
ねらい：中学校の学習への児童の興味・関心を高め、学習の楽しさを体験することで、進学に伴う不安を軽減する。また、中学校での学習内容の基礎や授業の雰囲気を感じ、円滑に中学校で学ぶことができるようにする。



高い専門性を有する中学校教員が、小学校高学年の外国語の授業を行うことで、児童は中学校での授業の進め方やテンポ等が体感でき、中学校での授業に対する意欲が高まってきている。また、外国語活動で培ってきた「聞くこと」「話すこと」に加えて、「読むこと」「書くこと」に慣れ親しむ活動を取り入れることで、アルファベットや英単語、英文を書いたり、読んだりする楽しさを味わうとともに外国語を使うことに対する自信が付いてきている。さらに、中学校教員が乗り入れ授業を行うことにより、児童の学習状況について理解が図られ、中学生の指導にも生かされている。行事等により授業時数確保の調整や、小中教員の研修や打合せのための時間の確保が難しいことが課題である。

取組 1-②

乗り入れ授業等の実施（プログラミング教育）



小学校と中学校の教員が事前の打合せで児童の実態やICT環境の把握、周辺機器の動作確認等を行い、学習活動の内容や支援方法等を検討した。児童は、「プログラミングの授業は難しい」と先入観をもっていたが、中学校教員から専門的な指導を受けることで、タブレット端末の操作にも慣れ、プログラミングへの意欲が高まった。また、思いどおりにプログラムが動かないときに、どこが間違っていたのかを考え、修正や改善を行い、その結果を確かめるなど、論理的に筋道を立てて考える力が身に付いてきている。プログラミングの指導経験が豊富な中学校の教員の指導の技術や知識を小学校の教員が学ぶことで、プログラミングやICT活用に関する技能の向上にもつながった。

取組 1-②・4-①

小中合同練習会・学習会

ねらい：小学生の学力・体力の向上と先輩への憧れを抱けるようにする。
中学生の自己肯定感の向上と自己有用感の育成を目指す。

Start !

平米小から、「6年生の陸上がなかなか上達しないので、定塚小と合同練習をしたい」と提案。



Step 1

夏休みの2日間、陸上練習と算数科の学習も一緒に行うことが決定。



平米小学校のみんなと友達になって、そして、ライバルになってよかったです。足の速い人と一緒に走れたので、やる気が出ました。

Step 2

「算数教師ボランティア」募集のちらしを、中学生に配付。



解き方が分からなくて困っていると、中学生が分かりやすく教えてくれました。できたら「完璧！」と一緒に喜んでくれたのがうれしかったです。

Step 3

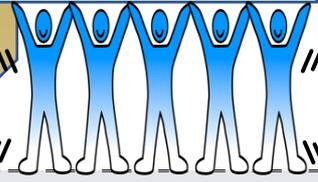
算数科の指導に、高陵中の生徒1~3年生、26名が自主的に参加。



メッセージカードを読んで、小学生の素直さや謙虚さに感動しました。自分が小学生の役に立っているということがうれしかったです。

Step 4

感謝の気持ちを表した「メッセージカード」を、平米小・定塚小から、高陵中へ心を込めて送付。



当初は小学校2校による合同陸上練習のみの企画だったが、算数学習会同時開催、中学生のボランティア参加と想定外に活動が広がっていった。わずか2日間だったが、学習・運動面は元より、定塚小・平米小児童の仲を深めたり、「あんな中学生になりたい」と先輩に憧れの気持ちをもったりすることができた。また、高陵中生徒の「今まで、人に教えてもらうことだけだった。このボランティアで人に教えることへの自信がついた。来年も参加したい」という感想からも、自己肯定感の向上や自己有用感の育成が伺える。

取組 1-②・4-①

合奏指導

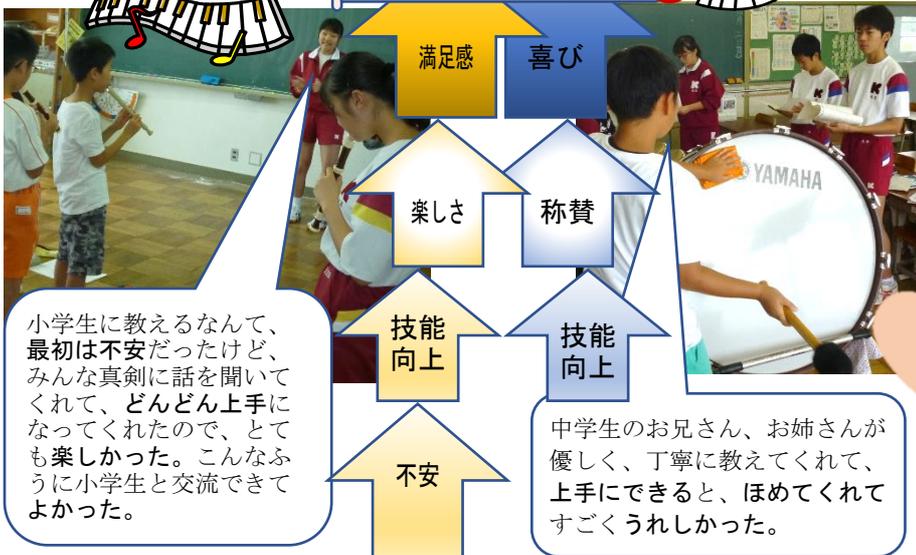
4-①

合唱コンクール

ねらい：小学生…楽器の演奏の技能の向上を図る。
中学生…自己有用感を育成する。

ねらい：小学生…豊かな心を醸成する。
中学校生活への期待がもてるようにする。

心のつながり



歌には中学生の思いがたくさんつまっていると感じた。私も1年後、聴く人に勇気と笑顔を与えられるようになりたい。

憧れ

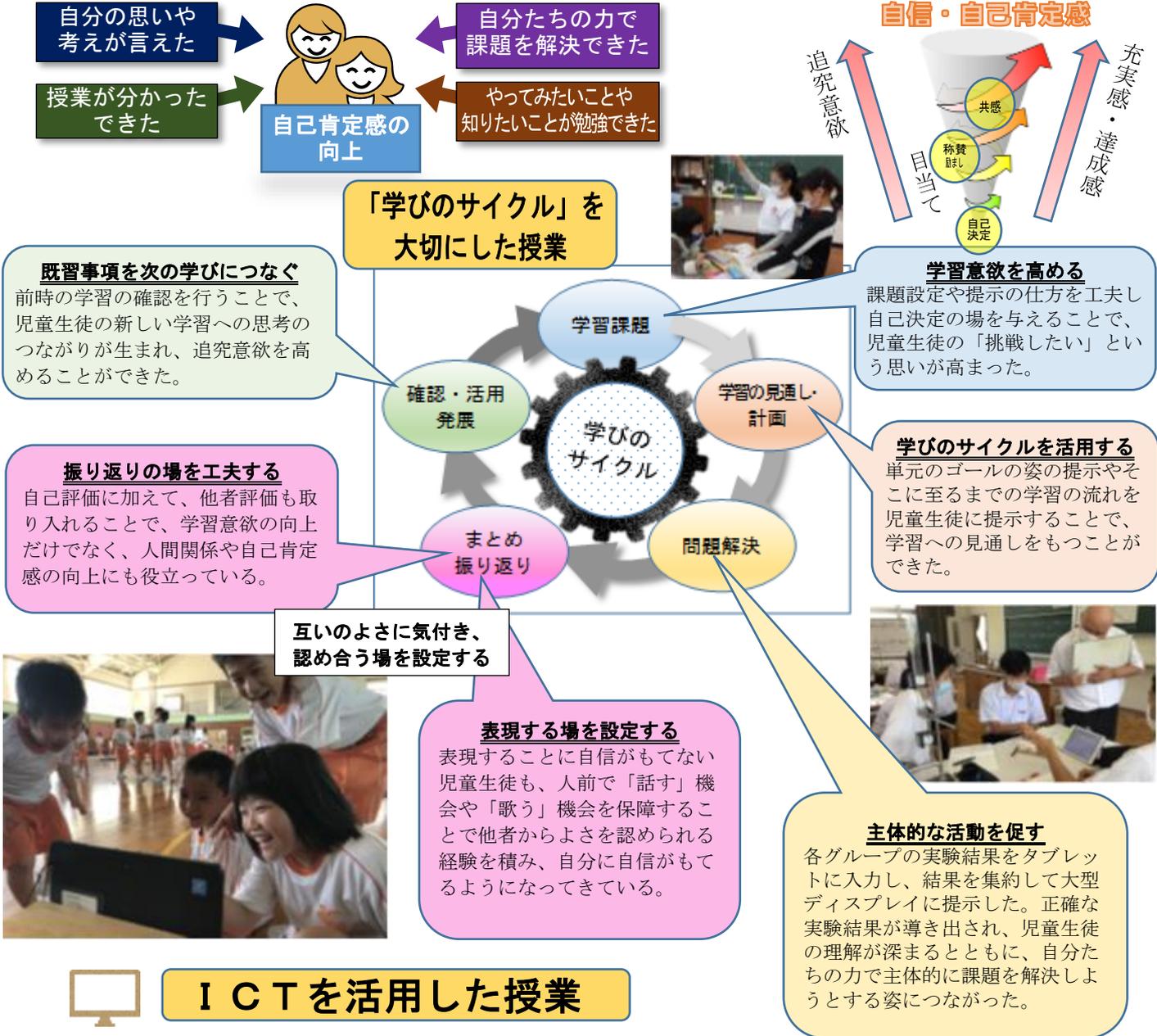
小学生から中学生へ感謝のメッセージ

定塚小から高陵中吹奏楽部に連合音楽会に向けた合奏指導の依頼があった。当初は中学1、2年生の部員だけで行う予定だったが、3年生部員から「ぜひ参加したい」という強い要望があり、1~3年生の27名で参加した。短い時間だったが、生徒は小学生の役に立てたことに充実感を味わっていた。

コンクールの間、児童は、身を乗り出すようにしてステージを見つめ、美しい歌声に聴き入っていた。帰校後には自分たちの思いを中学生に届けた。感想からは、小学生が、中学生のハーモニーや堂々とした姿に憧れと中学校生活への期待を抱いたことが感じられた。次年度は小学生も一緒に歌うなど一体感を感じられるようにしたい。

取組 2-① 一人一人を大切にし、達成感を味わえる授業づくり

ねらい：教師がやる気につながる称賛や励ましをしたり、児童が互いよさに気づき、認め合う場を設定したりすることで、自己存在感や共感的な人間関係を育む。また、「学びのサイクル」を意識したり、ICT機器等を積極的に活用したりして、「分かる・できる」授業を行い、児童生徒のわくわくする気持ちを向上するようにする。さらに、新たな発見や達成感を味わうことができる授業づくりをすることで、自己肯定感や自信を高める。



客観的評価を支えるICT機器の活用
 他者の目を通して見える自分の動きや表情、表現等をタブレットで記録し、自分で再生して確認することが可能となった。児童生徒は自身の客観的評価を行うことで、自分のイメージと実際の違いを知ることができた。ICT機器の活用により、新たに課題や目標をもち、次の学習につながる意欲を引き出すことにつながった。
 (小学 体育等 中学 英語等)

対話を引き出すタブレットの活用
 国語科の「パンフレットを作ろう」の学習では、全体で共通の画面を共有すると同時に、グループで同時に編集作業が行えるようにした。作成しているパンフレットを互いに見合うことができることで、児童の間に質問したり、アドバイスしたりする姿が自然と生まれ、児童相互が認め合い、学びが深まった。
 (小学 国語)



児童生徒は、「学びのサイクル」を意識することで、計画・見通しをもって安心して学習することができた。ICT機器の積極的な活用は、「学習意欲の向上」、自分でできたという「達成感・充実感」や、関わりが増えたことによる「認め合い」等で、様々な効果があった。これからも、日々の授業で一人一人を大切に、達成感を味わうことができるように努めることで、児童生徒の自己肯定感や自信が高まるようにしたい。

取組 2-②

学習規律の徹底

ねらい：
 ・中学校卒業時の生徒のあるべき姿を意識して、小中それぞれの発達の段階に応じた学習規律を設定することで、自然と規律が身に付くようにし、徹底を図る。
 ・中学校入学を見通して小学校教員が連携し、学習規律を共通化することで、中学校入学時の生徒の戸惑いや不適応を減らし、小中の円滑な接続ができるようにする。

中学校と小学校のつながを意識した取組

小中3校の教員で、互いの学校の学習規律について、意見交換を行った。中学校教員から「入学後の生徒が戸惑うのは、時間の流れやまよりの違いが大きいのではないか」という意見が出された。そこで、次のような取組を行うことにした。

- ・中学校の「2分前着席」を小学校でも意識できるようにする。
- ・中学校の学校生活のきまりや活動の仕方を説明するビデオを作成する。小学校では、6年生がそのビデオを視聴し、中学校の10分間休憩の使い方等を理解しておく。
- ・教師や先輩といった目上の人には敬語を使うこと等、社会のルールを繰り返し教え、身に付くようにする。
- ・小学校同士で、**スタンダードの共通化**を図り、中学校に入学した際や再編統合した際に、学校生活に円滑に入れるようにする。



「〇〇小スタンダード」の統一

R2

二つの小学校で、筆箱の中身、机上の学習用具のそろえ方、学習態度等について共通のスタンダードを設定した。保護者には、半日体験入学で説明したり、年度当初に各家庭に配付したりして協力を仰ぎ、学校と家庭が協力して指導している。児童には、学年集会や全校集会等で説明し、徹底を図った。また、学期の初めと終わりに、児童が**自分の取組を自己評価**して振り返ったり、その取組を各家庭にたよりで知らせたりして、家庭と学校が協力することで、規律が身に付くようにしている。



「仕方集会」

入学してすぐに、生徒会が中心となり、校内での過ごし方(職員室の出入り、給食の準備や片付け、清掃の仕方等)を全校集会でプレゼンテーションや実演を通して伝え、自分たちでよりよい学校生活を送れるようにする。



生徒主体の取組へ

「クラスの絆週間」

生徒会が定期考査前に行い、実施し、授業の受けかたを呼びかける。

学習規律について、小中学校の教員が話し合い、意思統一を図ることで、中学校進学時に必要なことを小学校ですっきりと指導するように努めた。その結果、中学校入学後に生徒は規律の違いに戸惑うことが減り、中学校生活に円滑に入ることができるようになる。二つの小学校では、スタンダードに基づいた指導を行うことで、令和4年度に再編統合した際にも、安心して新しい学校生活に入れると考える。今後も、小中で連絡を密にし、気付いたことを伝え合い、知恵を出し合うことで、9年間の学びと育ちを支援していきたい。



取組 3-①・② 個に応じた支援の在り方

ねらい：小中学校特別支援学級担任が作成した「小中連携計画」に基づき、1年を通じた連携を図ることで、連続した支援を行うことができるようにする。

高陵中学校ブロック

特別支援学級 小中連携計画

1 目的	特別支援学級の担任が情報交換を行い、児童生徒の実態を共有して、中学校生活にスムーズに対応できるようにする。		
2 日程と内容	月・日	内容	ねらい
	4月～5月	小中担任の情報交換④⑤	入学後の生徒の実態について共通理解を図り、生徒への適切な支援について考える。
	5月～6月	小学校担任による中学校での自立活動の授業	自立活動の指導について、学校と中学校で共通理解を図る。
	6月～7月	児童と保護者の中学校見学会(教科の授業参観)	中学校の特別支援学級の様子を参観し、進学先を、担任が保護者と共に確認する。
	8月	小中担任の情報交換①	高陵中学校で、小中の特別支援学級担任が、来年度支援級へ進学する児童について情報を交換する。
	2学期	中学校担任による小学校の授業参観	来年度支援級に進学する児童の実態について共通理解を図る。
	1月～2月	小中交流学習	文芸部で活動している6年生が、中学校へ参観し、交流をもてるようにする。
	2月	小中担任の情報交換②	入学を目前にした児童や保護者、児童の不安、必要な支援などについて共通理解を図る。
	8月	小中連絡会③	資料の引き継ぎ、申し送りなどを行う。

①情報交換
小中学校の特別支援学級担任が集まり、年間5回実施。4月は、中学校の学年主任、交流級の担任も参加し、「小中連携シート」(右)を活用して、入学した生徒の実態について共通理解を図り、適切な支援が行われるようにする。中学校では、「小中連携シート」を基に、校内教育支援委員会を開き、全教職員が特別支援学級の生徒理解を深め、適切な支援が連続するようにした。

②乗り入れ授業の実施
小学校の特別支援学級担任が中学校に向いて自立活動の授業をする(下段)ことで、指導について研鑽を重ね、児童生徒の連続した支援につなげる。

③特別支援学級見学
児童と保護者が中学校の特別支援学級の授業を参観し、進学への期待と小学校卒業までの目標をもてるようにする。

④授業参観
小中学校の特別支援学級担任が互いの授業を参観することで、児童生徒の発達の段階の理解と授業力の向上を図る。

平成31年度 高岡市立定塚小学校 引き継ぎシート

作成日 平成 31年 3月 18日
作成者 []
おおきり級担任 []

学校・学級名	高岡市立定塚小学校 あおきり級(知的障害特別支援学級)		
児童生徒	性別	生年月日	
児童氏名	[]	平成 []年 []月 []日	[]
保護者氏名	[]	電話番号 []	[]
現住所	[]		
家族構成	[]		
障害・病歴にかかわる診断	軽度精神発達遅滞		
療育手帳	有	判定()	平成 []年 []月取得
身体障害者手帳	有	等級()	種類()
精神障害者保健福祉手帳	有	等級()	平成 []年 []月取得
障害の有無	有	業名()	()
てんかん	有	種類()	頻度
	有	発症頻度は、部分、全等、全面は、年2、3回、3回、○口言葉(1等)を記入。	
これまで受けた特別支援等(進級に当たっての)	検査結果	検査機関	検査日
特に関心のある項目	日常生活リズム	自立活動	日常生活(普通学級など)
	危険認知	指示の理解	意思の伝達
	感情のコントロール	身体機能	学力
		読書	家庭学習、提出物
配慮や支援が必要な場面	必重度	小学校での様子	これまでの支援や合理的配慮
	中	健康、生活リズム、進級	なし
	軽	進級に際して(アレルギ、偏食、分断)	好き嫌いが多い、食べるのに時間がかかる、しよいは誰かから食べると、食べない、嫌い、食べ物を食べない。
	指すの遅延	指すの遅延	指すの遅延
	非言語的コミュニケーション	非言語的コミュニケーション	非言語的コミュニケーション
	他人の関わり(集団への参加/行事での参加等)	他人の関わり(集団への参加/行事での参加等)	他人の関わり(集団への参加/行事での参加等)
	こだわり、パニック/癇癪	こだわり、パニック/癇癪	こだわり、パニック/癇癪
	移動・移動性(距離、方向、注意、機能的行動等)	移動・移動性(距離、方向、注意、機能的行動等)	移動・移動性(距離、方向、注意、機能的行動等)
	身体や身体の動き(姿勢、運動能力)	身体や身体の動き(姿勢、運動能力)	身体や身体の動き(姿勢、運動能力)
	ストレス対応(主な原因とその対応)	ストレス対応(主な原因とその対応)	ストレス対応(主な原因とその対応)

※必要に応じて、中学校の支援級担任が小学校を訪問し、授業中の児童の様子を参観する。

教員が様々な連携を図ることで、児童生徒を理解する能力や授業力が高まり、一人一人のニーズに応じた支援につながっている。また、児童と保護者が中学校の特別支援学級を見学することで、中学校進学から卒業までの見通しをもつことができた。今後はさらに情報交換を綿密に行い、互いの支援のよさを取り入れることで、指導力の向上と支援の充実を図っていきたい。

・小中連携シート
小学校での様子を「配慮が必要な場面」「興味・関心」「授業の受け方」等の項目で記録し、中学校生活が始まるにスムーズにスタートできるようにする。



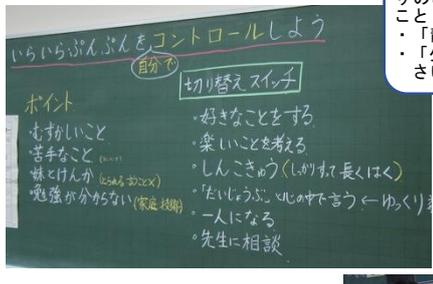
取組 3-① 乗り入れ授業の実施 (特別支援学級 自立活動)

ねらい：小学校の特別支援学級担任が中学校に向き、自立活動の授業を行うことで、自立活動の指導について研鑽を重ね、児童生徒の連続した支援につなげる。

すごいなあ。こんなふうに考えて書くことができるようになったんだね。

授業の流れ

- ①確認
- ②いらいら・ぶんぶんメーターをつくらう!
- ③私のいらいら・ぶんぶん
- ④いらいら・ぶんぶん切り替えスチッチを見付けよう
- ⑤いらいら・ぶんぶん取扱説明書をつくらう



ぼくがいらいらしたときに、周りのみなさんをお願いしたいこと
・「静かにしてください。」
・「少し、ぼくから離れてください。」

このような配慮や支援をすれば、効果的なんだな。

授業後の話し合い

いらいら・ぶんぶんメーター



ぼくは、いらいらぶんぶんがいっぱいになると、物を投げたくなるよ。

きめ細かな配慮や言葉かけ等、指導技術の向上

小学校段階で身に付けておくべき力の確認

小学校教員は乗り入れ授業によって、生徒の発言や学習態度から、一人一人の成長をみることができるとともに、小学校からの継続した指導が生きていると感じ取ることができた。また、中学校へ入学するまでに小学校で育成を目指す資質・能力を知ることができる貴重な時間であった。中学校の教員にとっては、小学校の担任の板書の文字や難しい言葉への配慮、身振りを付けた表現、資料の提示等、生徒が生き生きと学習に取り組むために必要な指導の在り方を学ぶことができた。教師と生徒との信頼感があることで、素直に気持ちを表現していた様子も見られた。小学校からの連続した支援を行うためのよい機会となった。

R2
R1

取組 4-① 小中合同あいさつ運動

R1

ねらい：挨拶を通して、小中学校の交流を図り、望ましい人間関係づくりを推進する。



児童会



生徒会

中学生に学びたい

挨拶の輪を広めたい

仲よくなりたい

小学生と距離を縮めたい

中学生の挨拶の仕方を学び
毎日の学校生活に生かそう。

積極的に挨拶をしたくなる環境
をつくり、小学生との挨拶の輪
を広めよう。

9月のあいさつ運動ではやり方を見直そう

- ① 目当ての作成 ② 小中で交互に並び、ハイタッチする
- ③ 互いのメッセージカードの交換



令和元年度の6月の活動では、お互いに心の距離や遠慮があった。意見を出し合い、やり方を見直す中で、解決策として双方向から様々な提案がされた。それを基に、児童会・生徒会担当教員が共通理解を図ってから、9月に実施した。互いのアイデアが、活動の中で実践され、主体的な取組がみられた。

R2
R1

取組 4-① 小小連携 ～学年の交流～

R1
3年生

ねらい：学校紹介や外国語活動を通して、それぞれの学校のよさや、互いのことを知り、相互理解を図る。

定塚小学校、平米小学校合同の交流集会

学校紹介

お互いの学校のよさについて分かったよ。



まだ緊張して上手におしゃべりできないな…

自己紹介タイム

通っていた保育園が一緒で仲よくなった人もいたよ。



英語での交流

平米小学校の〇〇さんは英語が上手だな。ALTの先生の質問にも答えられたよ。



アルファベットを並べるゲームでは一緒に助け合って、並べることができたよ。一緒にできて楽しかったな。だんだん仲よくなってきたよ。



初めて知り合う児童が多く、最初の活動ではどう関わってよいか分からず戸惑っている様子が見られた。そこで、互いの学校が積極的に関わることができるように、交流の場を工夫したこと等で、帰りには自然と名前を呼び合う姿が見られた。交流後には手紙でメッセージ交換をするなど、これからも交流したいという意識を高めることができた。

R2
4年生

ねらい：統合時に最高学年であることを見据え、積極的に交流を図り、互いに協力し、思いやる心を育成する。

定塚小学校、平米小学校合同の校外学習

顔合わせ、グループの役割決め

久しぶりで、少し緊張するな。班長をやりたいけれど、積極的に言えない…



アイスブレイキング

ゲームをしながら、会話をすると、だんだん話せるようになってきたよ。

オリエンテーリング

困ったときには、お互いに助け合って、チェックポイントを見付け出したよ。チームワークもバッチリ！



木のキーホルダーづくり

交流で仲よくなった証に、キーホルダーの裏に、サインを交換し合ったよ。



積極的に話ができて、楽しかった。また一緒に活動したいな。感想をメッセージカードで伝えよう。再来年一緒にするのが楽しみだな。

役割決めやオリエンテーリング等、協力し思いやる場を意図的に設定することで、あっという間に打ち解け、よりよい関係を築いていくことができた。次年度以降もメッセージのやりとりや交流の場を設定し、関わりを充実させていきたい。



グラウンドデザイン
R1 **取組 4-① クリーン作戦**

ねらい：小学校 通学路や毎日過ごす校舎をきれいにし、2学期のスタートを気持ちよく迎える。
中学校 校区をきれいにし、ボランティアへの意識を高める。

今年度の取組：ねらいの共通化
小中で連携して校区をきれいにし、ボランティアの意識を高めよう



思ったよりごみが落ちていてびっくりした。友達や家族と地域をきれいにできてよかった。



人目に付かない所にも、ごみがあった。もっときれいな地域にしたいと思った。

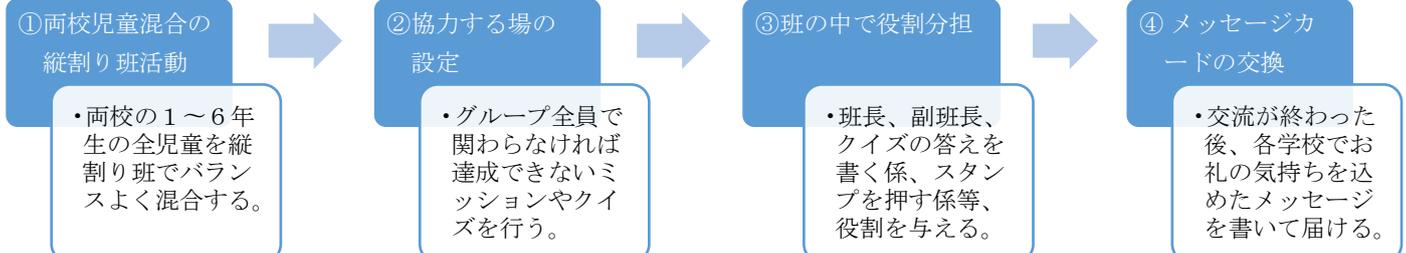


令和元年度は小中連携してねらいを共通化することで、校区をきれいにしようという意識が高まり、実施日は違ったが、熱心にごみを拾う小中学生の姿が見られた。次年度は日を揃えて、6年生と中学生がリーダーシップを発揮する活動にしたい。また安全性の観点からPTAの協力を仰ぎ、保護者の小中連携も推進していきたい。

グラウンドデザイン
R2 **取組 4-② 仲よし交流「古城公園オリエンテーリング」**

ねらい：・定塚・平米両小学校の児童が令和4年度の統合に向けて交流を深め、協力する気持ちや思いやりの心を育む。
・両校の間にある高岡市の名所であり、国の指定史跡になっている「高岡古城公園」での活動を通して、地域への誇りと愛着の気持ちを高める。

交流を深めるために



期待の高まり
仲よし交流では、協力してクイズやミッションをして楽しかったです。もっと仲良くなりたいので、次の交流を楽しみにしています。



仲よくなれた実感
7年のはじめのオリエンテーリングで、たろび、おにぎりがクイズで仲よく深められてたのしかった。次の校外学習でもっと仲よく頑張りたいです。校外学習でまたあつたのを楽しみにしています。



よさへの気付き
平米の人の話を聞きたいが、見習いたいと思うので、校外学習で仲よくしたいです。



相手への感謝
仲よし交流では積極的に話し合ってくれた。とても楽しかったです。平利と定塚小の仲がよかった。言いあたりして済んだ。また交流したいです。

合同でオリエンテーリングを行うことを通して、互いの学校の友達に関心をもち、交流を続けていきたいという意欲を高める機会となった。また、班長等の役割をもって活動することは、リーダーシップを発揮する機会、リーダーシップを学ぶ機会、自己肯定感を育む機会となった。高学年にとっては、中学校進学後に共に学ぶ相手との関係づくりに対する不安を和らげ、対人関係における小中の円滑な接続につながる事が期待できる。「高岡古城公園」に関するクイズやミッションを通して、地域のよさを改めて実感する活動にもなった。

グラウンドデザイン
R1 **取組 4-① かるた練習**

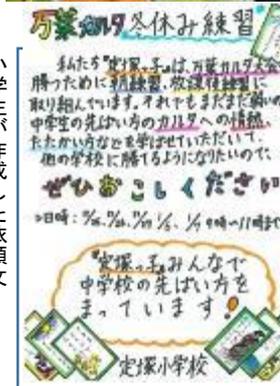
ねらい：郷土を愛する心を育成する。
万葉かるたの技能の向上を図る。



全校万葉かるた練習開始 (11月～)

団体優勝目指して、みんなで頑張ろう！

冬休みの合同練習会 (12月～)



小学生が作成した依頼文



中学生の協力

先輩と一緒に万葉かるたに取り組むことで、小学生は憧れを抱くとともに、より強くなろうと努力したことで、技能の向上につながった。今回は小学生の呼びかけで、中学生は代々先輩から受け継いだことを後輩にも伝えたいと練習に加わり、小中学生の心の絆が育まれている。今後は万葉かるただけでなく、前田利長ゆかりの高岡古城公園を活用した取組を工夫していきたい。

取組 4-③ アウトメディアでスマイル週間 & Rest Your Eyes

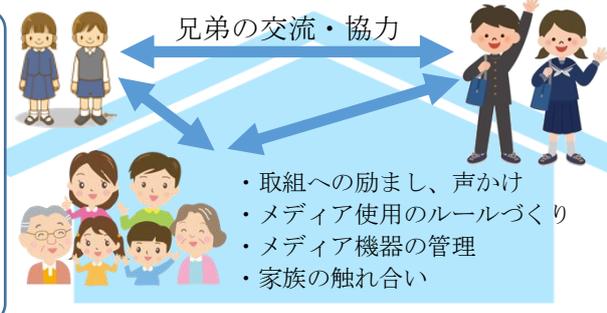
R1 ねらい：・アウトメディアを通して、規則正しい生活習慣を定着させる。
 ・自分自身で時間の使い方を考え、メディア利用をコントロールする力を身に付ける。

定塚・平米小
 児童保健委員会
 「アウトメディアでスマイル週間」
 「ぐっすり すいみん週間」

☆ 実施期間の統一（中学校の期末考査時期に合わせて）
 →家庭全体の意識を高め、家族で取り組めるようにする。
 ☆ 実施状況・成果の共有
 →児童・生徒、家庭の意識を高める。実施方法の評価・改善を行う。
 ☆ 学校保健委員会への参画（令和元年度は小中養護教諭のみ）
 →小中の健康課題を把握し、9年間を見通した指導につなげる。

高陵中学校
 生徒保健委員会
 「Rest Your Eyes」

◆児童保健委員会
 ・アウトメディアに関する掲示



◆生徒保健委員会
 ・取組結果のお知らせ
 ・事後アンケートの実施
 ・小学校の取組を基にした実施方法の評価、改善

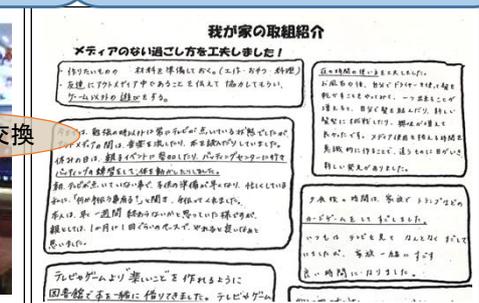


・保健だより（取組結果のお知らせ）

◆養護教諭・家庭への協力依頼文・保健だより作成（取組結果等）・相互の学校保健委員会のテーマ決定、参観

課題 児童・生徒の一層の連携の充実 保護者の協力 学校保健委員会の活用

R2 3校合同WEB会議 「我が家の取組」発行 学校保健委員会WEB会議



小中の保健委員で、「アウトメディアプロジェクト向上委員会」を開催した。アウトメディアデーの取組方法や結果を発表し合ったり、小学生は中学生にお勧めの取組方法を質問したりした。2回目のアウトメディア週間では、自校の取組をより効果的に改善していくことができた。互いに思いを伝えて取組を向上させることにやりがいを感じている様子が伺えた。

アウトメディア週間は、今まで中学校の期末考査に合わせて実施していたが、普段でも時間の使い方を意識して生活できるよう、**令和2年度**は、期末・中間考査期間以外に設定した。家族の協力が不可欠なことから、**3校のPTAで協力**し、保護者にもアウトメディアに対する協力を呼びかけた。また、「我が家の取組」を紹介する**広報もPTAで作成・発行**した。

令和元年度は学校保健委員会を同じテーマで実施した。**令和2年度**はさらに有意義な機会とするために、**3校でのWEB開催**とした。保健委員のアウトメディアの取組発表、PTAの「我が家の取組」紹介、校医の講話を3校の児童生徒が視聴した。アウトメディアの必要性について理解を深めるとともに、更なる協力体制の構築につながった。

アウトメディアに関する令和元年度の課題から、小中の養護教諭や保健主事が協力し、児童生徒の交流、PTAとの連携、校医の助言等、様々な面で取組を進めた。その結果、2学期のアウトメディア週間では、小学校では「睡眠」「家庭での過ごし方」「家族の触れ合い」「運動」の四つ全ての項目で1学期よりも改善が見られた。中学校では、メディア使用時間は増えたが、「学習に集中できた」「目が疲れにくくなった」「早寝・早起きができた」は向上した。メディア使用に関するルールがある家庭は、小学校では2校とも70%以上だが、中学校では46%と大きく減少する。ルールの小中の接続について、今後検討していきたい。保健委員会の児童生徒は、自分たちの取組が成果を上げたことで、やりがいや充実感を味わい、自己有用感が高まった。また、他の小学校や中学校との交流が参考になったと感じており、小中連携のよさを実感することができた。

研究の成果と課題

成果

取組 1

- ・ 昨年度の理科に続き外国語科と社会科の系統表を作成し、小中学校の教員が協働して研修したことで、9年間の学びをつなぐ学習の系統性・連続性を意識した指導につなげることができた。
- ・ 中学校教員が乗り入れ授業を行うことにより、児童の学習状況について理解が図られ、中学生の指導にも生かされている。

取組 2

- ・ 「学びのサイクル」を各教室や特別教室に掲示したことで、計画・見直しをもって安心して学習することができた。ICT機器の積極的な活用は、自分でできたという達成感や充実感、関わり合いが増えたことによる児童同士の認め合い、自分で解決しようとする学習意欲の向上等、様々な場面で効果があった。目的に応じ、どの場面で活用するか考えることでより効果を高めることができた。
- ・ 今年度は学習・生活スタンダードを2小学校で揃え、中学校への進学を見通したものに改良した。各種たより等を通して家庭と共有、連携したことで、児童の中学校生活への不安が軽減され、親近感や期待感をもつようになった。

取組 3

- ・ 特別支援教育においては、小学校で作成した「連携シート」を中学校で活用し、全教員が生徒の特性を共通理解し、個に応じた支援をすることができた。小学校では、「連携シート」の作成を通して児童の実態を掴み直し、何を中学校へ伝えるべきか、整理できた。
- ・ 小学校教員が中学校で自立活動の授業を行ったり、中学校教員が小学校特別支援学級の授業を見学したりして、効果的な支援の仕方について学ぶことができた。

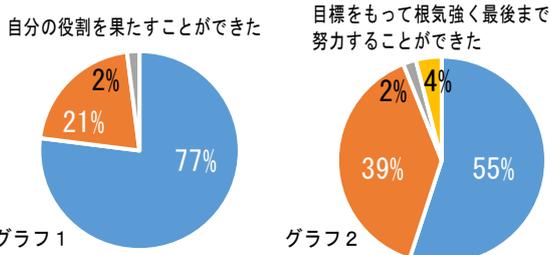
取組 4

- ・ 小小・小中の交流活動に参加した児童生徒は「自分の役割を果たすことができた」と達成感をもったり、「目標をもって努力することができた」と喜びを感じたりするなど、自己存在感や自己有用感の育成につながった。
- ・ P T Aと連携した「我が家の取組」発行や学校保健委員会により、保護者や児童生徒のアウトメディアへの意識が高まった。

自己肯定感の向上等に関するアンケートによる検証結果

■ 1 当てはまる ■ 2 どちらかといえば当てはまる ■ 3 どちらかといえば当てはまらない ■ 4 当てはまらない

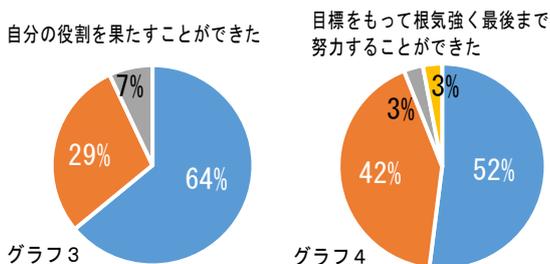
【小中合同あいさつ運動 (P9) を終えて】



「小中合同あいさつ運動」の実施に向けた事前WEB会議で児童生徒が活動内容について協議し、「自分たちが創り上げた活動」という意識をもたせることで、主体的に活動した。その結果「役割を果たすことができた」98% (グラフ 1)、「最後まで努力することができた」94% (グラフ 2) のように、達成感を味わっている児童生徒が多かった。

会議では「自分の中ではいいけど、前の課業の時に先生、高学年の中学校の上の人たちから小学校、中学校の先生に自分たちが何をどうやってやるのか、それに合わせて定例小学校、中学校の先生にいい話があった、いい話だ。

【「アウトメディアプロジェクト向上委員会」WEB会議 (P11) を終えて】



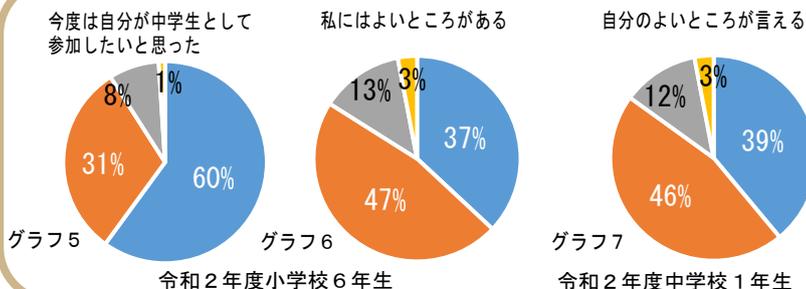
「アウトメディアプロジェクト向上委員会」WEB会議では、他校の取組の様子を参考に自校の取組を見直して、自発的な活動へとつながった。活動後、「役割を果たすことができた」93% (グラフ 3)、「最後まで努力することができた」94% (グラフ 4) と児童生徒の自己評価が高かった。

小中で実施時期を合わせて、保護者の協力を得ながらアウトメディアに取り組むことで、望ましい結果につながったと考える。

学校さんの取り組みが知られてよかった。メダルの時間を減らしていきけるように、またやいがんばりましょう。

定例小学校では取り組みがみんなに詳しく説明し、内容を分かりやすく伝えていたので、高学年で指導者になりたいと思いました。

【令和2年度全活動を振り返って】



今年度各交流活動に中心となって関わった小学6年生は「今度は自分が中学生として参加したい」91% (グラフ 5) と中学生への憧れや目標をもつことができた。また、84%の児童が活動を通して「私にはよいところがある」(グラフ 6) と実感することができた。

昨年度の小学6年生が今年度中学1年として各交流活動に参加した。85%の生徒が「自分のよいところが言える」(グラフ 7) と回答した。昨年度からの小中連携による円滑な接続の成果が伺える。

課題

- ・ 学習の系統表を教師だけが把握するのではなく、児童生徒も9年間の学びに見通しがもてるように共有したい。児童が「今学習していることが、中学校の学習へどのようにつながっていくのか」、生徒は「自分のつまずきは、これまでのどの学習を振り返って学習すればよいのか」を理解できるようにしていきたい。
- ・ 効果的なICT機器の利活用で、児童生徒は課題意識をもって学習に取り組むことができる。今後は、一人一台学習専用端末を効果的に用いた小中連携、小小連携による学習活動を創造していく必要がある。



研究同人

 高陵中学校		 定塚小学校		 平米小学校	
令和2年度					
永井 誠 本田 智 橋本ひとみ 油谷加代子 戸圓 嘉博 杉林 敦子 野村 紀子 宮本 陽子 山本 隆資 川堰 仁美 須古 葉子 丹羽 孝裕 高田 洋平 岡山 聡史	鍋谷 沙織 辻野亜希江 結城 貴大 藤長 成美 安田 孝典 氷見 怜奈 南 堅斗 山下 千尋 吉井 勝則 森川 峰子 千葉 多恵 山崎 模菜 Roisin Montcalm	鳥内 禎久 矢田 憲和 秦 正枝 漙 葉子 若林麻理子 今枝 敦子 福本 佳子 松尾 祐佳 石崎 素 豊本貴世子 堀 健太 三輪 真弓 金森 豊 間方奈保美	道元 隆成 南 佳織 余川小友妃 東井 一真 福尾 尚久 四十九葉月 杉高 正紀 島林 未夢 大村 麗奈 麦谷 郁弥 島崎 恭子 引地 桂子 金澤 優里 鈴木 昌季	高田 淳一 横山美智子 河原伊通子 松本 容子 神代 昌美 栗山 満 佐野さおり 林 紀予子 高野 真理 春山 寛明 篠島小百合 宮下 朋子 河 裕香 小嵐 愛 前 矢朱代 澤井千賀子	
令和元年度					
廉 涉 星野 正行 本澤 右子 石黒 朝子	橘 直子 牧山 泰子 水戸真美子 北村 元秀	松林 泰弘 山下 彩菜 久湊 愛佳	石黒 洋子 近藤智佳子	杉山 智充 樋口一英子 益山美智子 増川 登美	



①中学校教員による英語科の乗り入れ授業 ②小学校の外国語活動 ③中学校教員の小学校理科の授業見学
 ④小学校特別支援学級教員による中学校での自立活動の授業 ⑤～⑦小中全教員で行った「小中連携教育推進研修会」